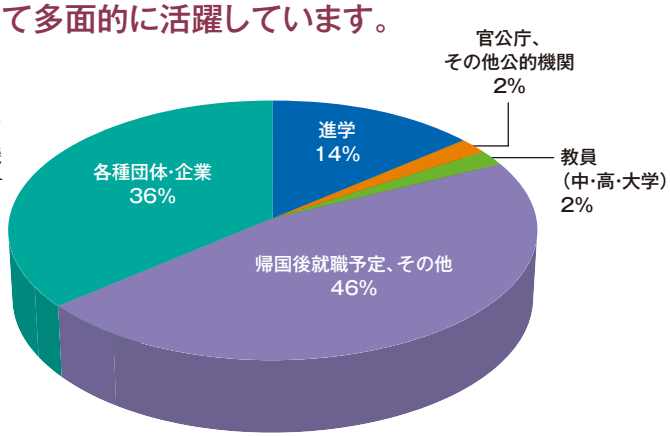
就職と進学
EMPLOYMENT AND CAREERS

国際文化学研究科は、創設以来、学界・教育界・ビジネス界に有為な人材を多数輩出しています。修了生はグローバル社会を切り拓くフロントランナーとして多面的に活躍しています。

1. 前期課程修了生の進路概況

2022 年度の前期課程修了生 44名のうち 18名が、前期課程修了後研究成果を活かして就職し、社会の第一線で活躍しています。就職先には、各種法人、各種教育機関、多様な分野の民間企業があげられます。また、6名が博士後期課程に進学しています。帰国後に本国で職につく留学生もいます。



2022年度（44名修了）

2. 前期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な就職先実績

高度な語学力と情報処理能力をベースに国際文化学の幅広い専門知識をつけた修了生は、さまざまな業種で活躍しています。公務員としては韓国法務省、パラオ政府芸術文化省、ベトナム政府関連など、海外からの留学生の活躍も目を引きます。教員としては英語、日本語、韓国語など、修了コースの特性を活かした分野で活躍する修了生もいます。

主要就職先	
公務員他	【国際機関】 パラオ政府芸術文化省、韓国外交産業省、タイ大使館、国連ハビタット（アジア・太平洋地域事務所）、ベトナム政府投資企画庁など 【国家公務員】 防衛省・語学職（英語）、大蔵省（現財務省）、外務省、国立民族学博物館、京都大学原子炉実験所（技官）、神戸大学職員など 【地方公務員】 兵庫県人と防災センター、兵庫県警、大阪市役所、西宮市役所、新潟市役所、神戸市芸術センター、兵庫県立芸術文化センター、神奈川県葉山町生活環境部、神戸市役所、三田市役所など 【その他】 JICA（国際協力専門員）、国際交流基金、青年海外協力隊（エルサルバドル派遣）、関西経済連合会、日本原子力研究開発機構、海外産業人材育成協会、在外公館派遣調査員、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、長崎原爆資料館など
教　員	【大学】神戸大学、兵庫県立大学、ラオス国立大学 【中学校・高等学校その他】大阪府、兵庫県、東京都、岡山県、山口県、鹿児島県、福井県、神戸市など
運　輸	全日空、JTB、川崎汽船、阪急交通社、NEXCO中日本、羽田空港など
広　告	電通、リクルートメディアコミュニケーションズなど
情　報	三混紡研DCS、NECソフト、NTTデータ、ソフトバンク、楽天グループ、日本IBM、日本IBMインダストリアルソリューション、野村総合研究所、ヤマトシステム開発、住生コンピューターサービス、日立システムエンジニア、メディアフュージョン、ゴールドマン･サックス、日本オラクル、NTT西日本、NECシステムテクノロジー、富士通FIP、富士通ビー･エス･シー、フジクラ、ウェブリオ、日本製薬、リクルートなど
食　品	JR 西日本フードサービス、カネテツデリカフーズなど
製　造	三菱重工業、日立製作所、住友ゴム工業、富士通、ダイハツ工業、NEC、YAMAHA、日本HP、日本IBM、関西電力、日立電線、川副機械製作所、トヨタ、シャープ、帝国電気、コスモ石油、バンダイ、コベルコシステム、ニチダイフィルタ、明和、矢崎創業、台湾日立化成工業、博瀬電機貿易（上海）有限会社、帝国電機、中国電信北京支社、JNC、パナソニック、ローランド、明星産業、華美電子など
マスコミ	共同通信、時事通信、神戸新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、日本放送協会（NHK）、京都新聞社、高知新聞社、MBSラジオなど
文　化	関西フィルハーモニー管弦楽団、（公益財団法人）びわ湖芸術文化財団、（公益財団法人）ニッセイ文化振興財団、公益財団法人吹田市文化振興事業団など

3. 前期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な進学先実績

本学の大学院博士後期課程をはじめ、他大学の大学院にも多数が進学しています。2022 年度の例では、修了生 44人中、6名が博士後期課程に進学しています。

主要進学先	
神　戸　大　学	国際文化学研究科、人文学研究科、人間発達環境学研究科、工学研究科など
その他国公立大学	京都大学大学院、大阪大学大学院、九州大学大学院、総合研究大学院大学、東京都立大学大学院、神戸市外国語大学大学院など
海外大学・私立大学	シェフィールド大学、ハンブルク大学、ルーヴェン大学、パリ第７大学、ナポリ東洋大学など

4. 後期課程修了生（旧研究科を含む）の進路概況

大学教員や学芸員などの職についています。2022 年度修了生は９名で、日本学術振興会特別研究員（ＰＤ）、関西観光大学教員、中国河南省新郷学院教員、私立びわこ成蹊スポーツ大学教員などに就職しました。

5. 後期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な就職実績

海外・国内の大学において、多くの修了者が研究者・教育者として活躍しています。また近年、学位取得後、大学だけではなく企業や研究所に就職する人も増えてきています。

主要就職先	
海　外　大　学	天津外国語大学、青島大学日本語学部、浙江大学人文学院、ヤンゴン大学人類学科、中国人民大学外国語学部、台湾国家科学委員会・人文学研究中心研究員、大連外国語学院日本語学院、湖南工業大学外国語学院、中国国立広州中医薬大学、中国内蒙古大学トルコ・チャナッカレオンセキズマルト大学、中国河南省新郷学院など
国公立大学等	【国立】大阪大学、神戸大学国際文化学研究科、神戸大学留学生センター、神戸大学百年史編集室、静岡大学、京都大学留学生センター、福井大学教育地域科学部、国立沼津工業高等専門学校教養科、福井大学、ジェトロ・アジア経済研究所など 【公立】島根県立大学看護学部、神戸市外国語大学、兵庫県立総合衛生学院、北九州市立大学基盤教育センターなど
私　立　大　学	桃山学院大学国際教養学部、大阪工業大学、近畿大学、同志社大学、プール学院大学国際文化学部、広島国際大学、大妻女子短期大学、甲南女子大学、四条畷学園短期大学、花園大学文学部、神戸学院大学経営学部、関西学院大学国際学部、関西学院大学言語教育研究センター、甲南大学人間科学研究所研究員、神戸情報大学院大学、武庫川女子大学、武蔵大学社会学部、環太平洋大学、京都精華大学など
学　芸　員	呉市海事歴史科学館学芸員など
行政・企業	神奈川県警察科学捜査研究所、朝日新聞、兵庫留学生会館、イオン、教育開発出版、メディキット、カナフレックスコーポレーション、財団法人安全保障貿易情報センター、国際交流基金、愛知県西尾市教育委員会、アステラス製薬、ファーストリテイリング、三菱銀行（中国・広州）、中国航空工業集団、国際電気通信基礎技術研究所など

充実したキャリア・サポート

国際文化学研究科はキャリア･サポートのコアに教育を据え、それを補強する就職支援活動を強力に、きめこまやかに推進するユニークな研究科を目指しています。近年は、特に外国人留学生の就職支援活動を充実させるように努めています。

就職支援を担当する鶴甲第一キャンパスキャリアサポートセンター（鶴一CSC）は、就職、留学、資格試験、人生設計などに関するキャリア関連図書が閲覧できる独自のコーナーを設け、企業で働く方々の体験談や専門分野の知識の企業での生かし方などの講演会や就職活動体験報告会等の働き方の探求に関わる行事を開催しつつ、面接対策、インターンシップ対策など就職活動に直接関わる各種の情報提供をしています。全学の就職支援活動と常に連携しながらも、院生一人ひとりの進路選択の相談に応じるなど、充実したサポート体制をとっています。近年は、グループディスカッション講座など、新しい企画にも挑戦する一方、特に留学生のための就職支援活動に力を入れています。

全学の研究支援施設・学生寮・奨学金

RESEARCH FACILITIES, DORMITORIES, SCHOLARSHIPS

CALL 室 / ランゲージ・ハブ室

研究科のキャンパスには、国際コミュニケーションセンターが運営する外国語学習支援施設があります。「アクティブラーニングラボ（AL Lab）」と「インタラクティブラーニングラボ（IL Lab）」では、外国語学習において、ペアワークやグループディスカッションなどの双方向型学習が円滑に行えるような教室環境が整えられています。

「ランゲージ・ハブ室」には、英・独・仏・中・露・韓の各国語を話す留学生が常駐しており、気軽に外国語による会話体験を持つことができます。また、「ランゲージ・ハブ室」では、英語プレゼンテーション・セミナーなど、さまざまな外国語教育プログラムが提供されており、学んだ外国語を実際に使う場が用意されています。これらの充実した施設を活用することで、外国語の実践的運用力の向上が期待できます。英語をはじめとした既修外国語のブラッシュアップはもちろん、ぜひ、新しい外国語の習得にもチャレンジしていただきたいと思います。

学生寮

大学の寮として、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鴎寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鴎寮」があります。学生寮の寄宿料は月額4,700円～18,000円（光熱費などは別）です。格安であること、研究科を超えた友人を作りやすいことなどが寮のメリットです。また、「女子寮」を除き、日本人学生と留学生の混住型となっており、国際的な交流が期待できます。

国際文化学図書館

神戸大学には各キャンパスに図書館があります。中央図書館というものはありません。国際文化学部図書館の入口には「総合図書館」と「国際文化学図書館」という２つの看板が掛けられています。総合図書館というのは全学共通教育の学習支援を行うことを目的としており、全学問分野の資料の充実に努めています。国際文化学図書館は、国際文化学部・本研究科の学生・院生向けに、文化交流や各国の文化事情など国際文化学に関わる資料を中心に収集しています。

本図書館では、「学生希望図書」という予算費目があり、本研究科の大学院生は、学術的な図書の購入希望を申請することができます。図書館では、蔵書の貸し出しに加えて以下のサービスが提供されます。複写申し込み、学内の他の図書館からの取寄せ、他大学からの図書貸与やコピーの申し込み、購入希望の受付などです。またこれらのサービスは、図書館まで行かずに、学内のパソコンの画面から依頼することができ、さらに文献やコピーの到着をＥメールで案内してくれるので大変便利です。また図書館のホームページで電子ジャーナル検索、データベース検索、新聞記事検索を利用できます。平日は８：45から21：30まで、土曜日は10：00から18：00まで開館しています。

奨学金

日本学生支援機構奨学金と神戸大学独自の奨学金、財団や企業、地方自治体などが支給する奨学金があります。日本学生支援機構の場合、第一種奨学金（無利子貸与）と第二種奨学金（有利子貸与）があり金額も異なります。

研究会・研究誌の紹介
Research Groups and Journals

国際文化学研究科には多くの研究会・プロジェクトが組織され、研究科の教育と研究の重要な一翼を担っています。

神戸大学大学院生紀要『国際文化学』

神戸大学国際文化学研究科は、研究科に所属する大学院生の研究を促進することを目的とし、研究成果を広く公開するために、『国際文化学』（大学院生紀要）を刊行しています。

『国際文化学』の前身は、2011 年度まで年 2 回（通算 25 号）、神戸大学国際文化学会（学術組織）が発行してきた学術雑誌です。この雑誌は、研究科の教育・研究の一翼を担ってきましたが、2012 年度より、大学院生の学術研究をサポートし、大学院教育の効果を強化するために、オンラインの大学院生紀要としてリニューアルいたしました。年1回の発行で、投稿資格者は国際文化学研究科の大学院生および編集委員会が認めた者です。

『国際文化学』の編集方針は、前身誌の方針を引き継ぎ、さらに大学院教育の一環としての特徴を備えております。大学院生が論文を投稿すると、指導教員以外から複数の査読委員が選ばれ、その論文の審査にあたります。専門的なコメントが必要な場合は外部の研究者に査読を依頼する事もあります。査読教員は、論文掲載の可否を決定するだけでなく、論文に問題がある場合には、それをどう修正すべきかについて懇切丁寧なコメントを投稿者に返します。論文の修正期間が十分に確保されているので、投稿者は指導教員とも相談しつつ、じっくり論文を書き直すことができます。このような査読―修正―再投稿のプロセスを経て、大学院生は全国学会などに投稿するための学問上の基本的な作法、必要とされる学術水準について学びます。

ホームページ
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/eISSN=21872082.html

『神戸文化人類学研究』

『神戸文化人類学研究』は、2007 年に創刊された文化人類学コースが発行する学術雑誌です。これは、2002 年に創刊された旧神戸大学社会人類学研究会が発行した学術雑誌『ぽぷるす』を前身としたものです。『神戸文化人類学研究』は、学内外2名の研究者による厳正な査読によって学術的水準を維持しています。本誌では、文化人類学を専攻する本研究科所属大学院生の研究成果が主に公表されていますが、近年では他大学の大学院生、研究者も投稿するようになっています。

なお、文化人類学コースでは、本コース所属大学院生を中心とした神戸人類学研究会が組織されています。定期的に開催される本研究会では、学内のみならず学外の研究者も招いて活発な議論が交わされ、その開催数は、2017 年 6 月の段階で 75 回を数えています。

ホームページ
http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/kobe-anthro/

『日本文化論年報』

『日本文化論年報』は、1998 年 3 月、学部および大学院の日本文化論講座（現在は日本学コース）を母体に創刊、年 1 冊の刊行を続けています。

講座・コースの研究・教育活動の牽引を目的に、教員および大学院生の研究成果、また優れた学部卒業論文などを掲載しています。その他教育活動に関する彙報、卒業生情報などもあります。刊行に際しては、神戸大学山口誓子学術振興基金の補助金を得ています。

ホームページ
http://web.cla.kobe-u.ac.jp/staff/gakunone/home/nenpou.html

研究サポート
RESEARCH SUPPORT

キャンパス内での院生の生活・研究を強力にサポートします。

空き時間は、ここでくつろぎ、勉強する ― 院生研究室 ―

国際文化学研究科には、院生専用の研究室が設置され、各研究室にはデスクのほか、書架やロッカーも配置されています。また、院生研究室には数多くのパソコンが配置され、インターネットや電子メールを自由に利用することができます。

自分のペースで研究を進めたい方に ― 長期履修学生制度 ―

この制度は、職業を有している等の事情により、２年間で博士前期課程修了に必要な単位を修得し修了することが困難な者が、入学時に計画的に２年を超えて単位を修得し修了することを申請し、大学がこれを認めた場合、２年間の授業料で２年を超えて在学できる制度です。

２年間の授業料の合計額を長期履修学生として認められた年数で除した額が年額授業料となります。ただし、在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。職業を有している等の事情とは、次のいずれかに該当する者で、標準修業年限内での修学が困難な者です。

（1）職業を有し就業している者（自営業および臨時雇用 [単発的なアルバイトを除く。] を含む。）
（2）家事、育児、介護等の事情を有する者
（3）その他研究科長が相当と認めた者

なお、この制度の利用には、上記の職業を有している等の事情以外に一定の条件があります。申請希望者はあらかじめ担当係に相談してください。

ハラスメントのないキャンパスをめざして ― ハラスメント防止委員会 ―

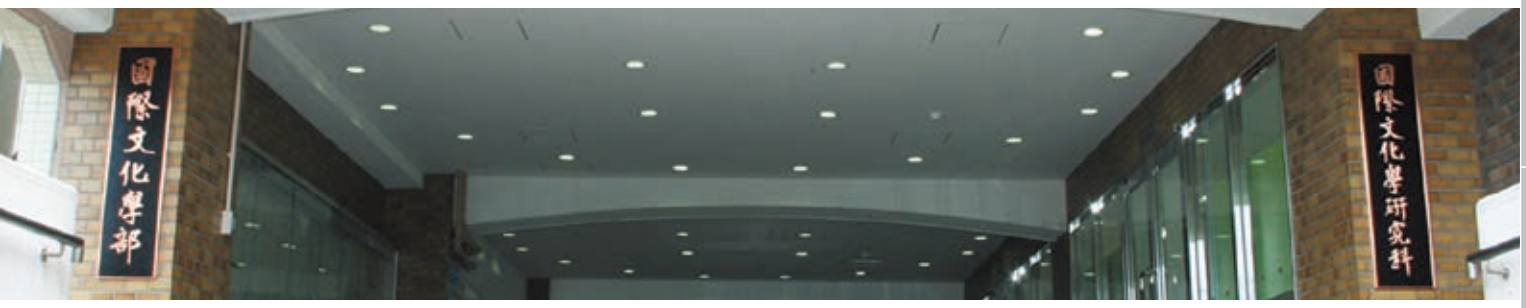
大学では、自由で充実したキャンパス・ライフを送ってほしいと思っています。性別、年齢に関係なく、互いを尊重する人間関係を築くことが大切です。とはいえ、人間関係が広がれば、望んでいないような不愉快な言動をされたり、気づかないうちに相手を傷つけたり、相手から傷つけられたり、ということが起こりえます。ハラスメントとは、「嫌がらせ」を意味し、就労、就学上の優位な立場を利用して、相手が望まない言動により、精神的、肉体的苦痛を与えることです。性的なことに関連するセクシャル・ハラスメント、教育上のことがらに関連するアカデミック・ハラスメント等々、さまざまな種類があります。

国際文化学研究科には、男性、女性両方の教員からなるハラスメント防止委員会が設置されています。不幸にしてハラスメントを受けてしまった場合、ひとりで悩まないで、早めに委員の教員に相談してください。ひとりで不安であれば、誰かに一緒に行ってもらいましょう。匿名での相談も受け付けています。委員会では、相談者のプライバシー保護に十分配慮していますので、安心して相談に来てください。

コピーカードの支給

授業や研究のために必要なレジュメや資料をコピーできるように、毎年、定額のコピーカードが無料で支給されます。

論文題目
THESIS TITLES



国際文化学研究科　論文題目（令和４年度提出分）

※（D）博士論文　（M）修士論文　（MC）修了研究レポート

【日本学コース】
（M）　世阿弥著『風姿花伝』における美学的キーワードの考察―英訳・日本語現代語訳比較を通じて―
（MC）　幕末・維新期における樺太の記録と調査―『大日本古文書　幕末外国関係文書』を中心に―
（MC）　今敏映画におけるサスペンス表現の戦略

【アジア・太平洋文化論コース】
（D）　中国亡命知識人のライフ・ヒストリーとヒストリーの交差――外と内，境界・周辺
（M）　北京学生運動における愛国主義北京学生運動における愛国主義北京学生運動における愛国主義
（M）　マレーシアの新華僑：「平行的コミュニティ」概念の検証を軸に

【ヨーロッパ・アメリカ文化論コース】
（M）　現代キューバの人種主義からみる貧困の再生産過程―人種差別の社会問題化への取組みとその困難性
（M）　中国都市部の寄宿学校における課外活動の展開について―デューイの教育理論に基づいて―
（M）　香港映画における「キョンシー」の誕生とそのホラー映画史的意義の再検討
（MC）　19 世紀後半の中米華工問題の外交交渉に関する研究―「バーリンゲーム条約」を中心に

【文化人類学コース】
（D）　台湾原住民運動後の部落に生きる「現代頭目」――台湾原住民族ルカイの伝統と権威をめぐるポリティクスの民族誌
（M）　「裸足の医者」：中華人民共和国農村部における在来の医学と「西洋医学」の併存に関する一考察
（MC）　経済制度の転換期を生きる元労働者たち―重慶市旧特殊鋼工場をめぐる語りの分析

【国際関係・比較政治論コース】
（D）　The Growing Political Influence and Participation of Ethnic Minority Associations in France and Government Responses: An Analysis of the Case of the Ethnic Chinese Community in Paris
（MC）　文化多様性条約にみるユネスコの規範形成能力―「持続可能な開発」概念に注目して―
（MC）　一帯一路に対する日本の政権と経団連の対応

【モダニティ論コース】
（D）　Research on the Formation and Transformation of Cinema Public Sphere in Shanghai, 1890s-1930s

【先端社会論コース】
（D）　宝塚歌劇における「女同士の絆」――雑誌・作品・聞き取りを通したファンと劇団における関係の研究――
（M）　日本型雇用システムにおける差別と抵抗―トランスジェンダーの新卒就職活動に注目して―
（MC）　アイデンティティ形成のオートエスノグラフィー
-「ミス iD」に追随する語りを通して -
（MC）　「脆弱な女性たち」が問い直すネパールにおける女性運動―バディ女性の運動から
（MC）　〈私〉のこの眼差しは、誰のものか―パク・チャヌク『お嬢さん』における「男性の視線」の流用をめぐるオートエスノグラフィー
（MC）　「二人っ子政策」における女性の「産む・産まない」自己決定の葛藤――潮州女性の人生の歩みを通して
（MC）　中国における「同妻問題」と婚姻をめぐる規範
（MC）　“Regional Revitalization” in Rural Japan: Foreign Residents and Local Community in Central Hokkaido

【芸術文化論コース】
（M）　現代アートの対話型鑑賞における対話から生まれる他者との関わり―国際芸術祭「あいち 2022」を事例に―
（M）　真珠史における養殖真珠発明の意義―宝石としての養殖真珠に関する考察―
（MC）　文化政策を通じた地方中小都市の創生―兵庫県豊岡市（日本）とザクセン州ゲルリッツ（ドイツ）を事例に―
（MC）　―共生社会におけるアートの役割～新長田の創造的な人々と NPO 法人ダンスボックスを事例に―

【言語コミュニケーションコース】
（M）　「疑い」のモダリティ形式に関する一考察 ―「ダロウカ」と「カナ」を中心に―
（M）　中日間字幕における異文化要素の翻訳方法に関する一考察―中国映画『花の生涯～梅蘭芳～』の日本語字幕を中心に―
（M）　中国語母語話者による日本語の「不同意表明」の使用について―日本語母語話者との比較―
（MC）　現代日本語における「結構」の連体修飾用法「結構な」の意味・用法と使用実態
（MC）　中国人上級日本語学習者のほめ言葉への返答についての考察―滞日年数による違いに注目して―
（MC）　中国人 L2 日本語学習者による LINE での断り表現の使用と日本語母語話者による受容に関する一考察
（MC）　吉本ばなな著『キッチン』の英・独訳における翻訳方略―美学の観点から考える―

【感性コミュニケーションコース】
（MC）　RSVP 課題による怒りの表情がその後の知覚過程に及ぼす影響の解析
（MC）　中国語を母語とする学習者による日本語外来語の処理過程

【情報コミュニケーションコース】
（M）　BERT を用いた音声認識の誤り検出システム
（M）　SNS 上のホット話題を代表者のリアルタイム対話へとつなげるまとめシステム
（MC）　産業クラスター内における知識伝播メカニズムの分析とシミュレーション

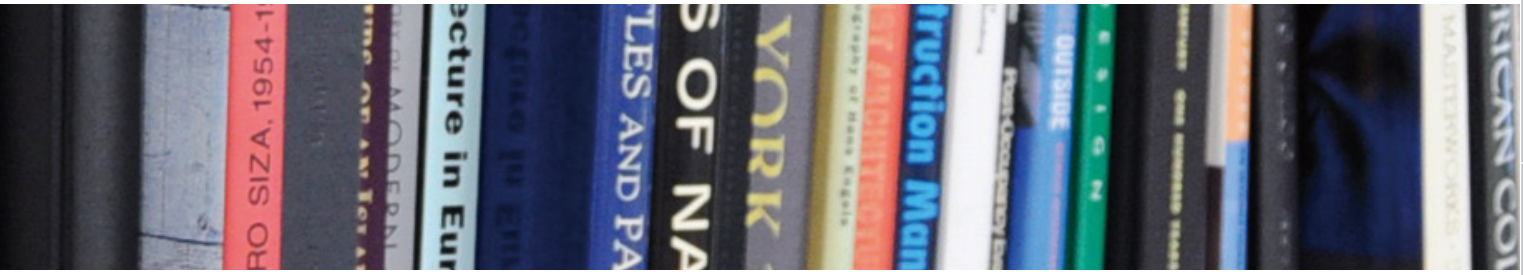
【外国語教育システム論コース】
（D）　Processing mechanisms in the comprehension of ambiguous sentences by Japanese learners of English: Does implicit learning occur through repeated exposure?
（D）　Coaching discourse and linguistic resources for player-centered training:
A case study of three professional football coaches
（D）　L1 and L2 lexical network of Chinese EFL learners:
Focusing on the effects of semantic category relationship and L2 vocabulary knowledge
（M）　How reading aloud and shadowing affect the acquisition of L2 grammar knowledge by Japanese EFL learners
（M）　英語科学技術論文における冠詞の機能に関する研究
（MC）　韓国語を母語とする日本語学習者の韻律的特徴とその習得―釜山方言話者の日本語学習者を中心に―
（MC）　The Effects of Story Retelling on Vocabulary Acquisition by Japanese EFL Learners
（MC）　国際交流プログラムにおける日本人高校生の発話の変容に関する研究

【外国語教育コンテンツ論コース】
（D）　Second Language Pedagogy and Use in an English Village: Interactional Practices and Sequential Structure
（M）　英語をカタカナ日本語にするときの音声的特徴―中国語を母語とする日本語学習者を対象に―
（MC）　中国語を母語とする日本語学習者における動詞ナイ形のアクセント習得
（MC）　日本語における同音異義語文の伝達意図と韻律的特徴

国際文化学研究科教員一覧

ACADEMIC STAFF

コース	氏名	職名	メールアドレス
日本学	板倉　史明	教授	itakura ■ people.kobe-u.ac.jp
日本学	長　志珠絵	教授	s.osa ■ landscape.kobe-u.ac.jp
日本学	辛島　理人	准教授	karashima ■ people.kobe-u.ac.jp
日本学	昆野　伸幸	教授	nobuyuki ■ port.kobe-u.ac.jp
日本学	寺内　直子	教授	naokotk ■ kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	伊藤　友美	教授	itot ■ kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	貞好　康志	教授	ysd ■ kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	谷川　真一	教授	tanigawa ■ port.kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	深川　宏樹	准教授	fukagawa ■ people.kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	橘　誠	准教授	tachibana ■ people.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	井上　弘貴	教授	hiro_inouye ■ port.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	小澤　卓也	教授	ozataku ■ harbor.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	衣笠　太朗	講師	tkinugasa ■ harbor.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	中村　麻美	講師	asamin ■ people.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	西谷　拓哉	教授	takuyan ■ kobe-u.ac.jp
文化人類学	梅屋　潔	教授	umeya ■ people.kobe-u.ac.jp
文化人類学	大石　侑香	講師	yuka ■ diamond.kobe-u.ac.jp
文化人類学	岡田　浩樹	教授	hokada ■ kobe-u.ac.jp
文化人類学	齋藤　剛	教授	t-saito ■ people.kobe-u.ac.jp
文化人類学	下條　尚志	准教授	shimojo ■ people.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	北村　結花	准教授	yuika ■ kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	近藤　祉秋	講師	skondo ■ boar.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	田中祐理子	准教授	tanaka.yuriko ■ people.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	塚原　東吾	教授	togotsukahara ■ harbor.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	深町　悟	講師	fukamachi ■ port.kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	中村　覚	教授	satnaka ■ kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	新川　匠郎	講師	shoniikawa ■ harbor.kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	安岡　正晴	教授	yasuoka ■ kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	李　昊	講師	lihao ■ people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	石田　圭子	准教授	keikoishida ■ people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	上野　成利	教授	ueno ■ people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	鹿野　祐嗣	助教	yujishikano ■ emerald.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	松家　理恵	教授	janjur ■ kobe-u.ac.jp
先端社会論	青山　薫	教授	kaoru ■ tiger.kobe-u.ac.jp
先端社会論	小笠原博毅	教授	hirokio ■ kobe-u.ac.jp
先端社会論	工藤　晴子	講師	haruko.kudo ■ people.kobe-u.ac.jp
先端社会論	桜井　徹	教授	sakurait ■ kobe-u.ac.jp
先端社会論	西澤　晃彦	教授	nishizawa ■ people.kobe-u.ac.jp



コース	氏名	職名	メールアドレス
芸術文化論	池上　裕子	教授	ikegami ■ port.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	礒谷　有亮	講師	isotani ■ port.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	岩本　和子	教授	iwamotok ■ kobe-u.ac.jp
芸術文化論	岡本　佳子	講師	okamoto_y ■ people.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	髙田　映介	講師	takada.eisuke ■ harbor.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	石田　雄樹	講師	yishida ■ port.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	川上　尚恵	大学教育推進機構 講師	kawakami ■ sapphire.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	小松原哲太	講師	komatsubara ■ port.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	齊藤　美穂	大学教育推進機構 准教授	msaito ■ people.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	田中　順子	教授	jtanaka ■ kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	朴　　秀娟	大学教育推進機構 講師	sypark ■ aquamarine.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	藤濤　文子	教授	fumiko ■ kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	南　　佑亮	准教授	y-minami ■ people.kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	北田　　亮	准教授	ryokitada ■ port.kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	巽　　智子	講師	tt ■ port.kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	林　　良子	教授	rhayashi ■ kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	松本絵理子	教授	ermatsu ■ kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	南本　　徹	助教	minamimoto.toru ■ topaz.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	大月　一弘	教授	ohtsuki ■ kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	大山　牧子	大学教育推進機構 准教授	m.oyama ■ tiger.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	康　　敏	教授	kang ■ kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	清光　英成	教授	kiyomitu ■ kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	西田　健志	准教授	tnishida ■ people.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	村尾　　元	教授	hjmr ■ opal.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	島津　厚久	大学教育推進機構 教授	shimazu ■ puppy.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	髙橋　康徳	大学教育推進機構 准教授	ytakahashi ■ port.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	濱田　真由	大学教育推進機構 助教	myhama ■ harbor.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	廣田　大地	大学教育推進機構 准教授	hirotadaichi ■ ruby.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	保田　幸子	大学教育推進機構 教授	syasuda ■ opal.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	安田　　麗	大学教育推進機構 講師	r.yasuda ■ port.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	横川　博一	大学教育推進機構 教授	yokokawa ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	石川慎一郎	大学教育推進機構 教授	iskwshin ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	柏木　治美	大学教育推進機構 教授	kasiwagi ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	木原恵美子	大学教育推進機構 准教授	kihara.emiko ■ crystal.kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	グリア・ティモシー	大学教育推進機構 教授	tim ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	芹澤　　円	大学教育推進機構 助教	m.serizawa ■ phoenix.kobe-u.ac.jp
先端コミュニケーション論	内海　　章	客員教授	utsumi ■ atr.jp
先端コミュニケーション論	住岡　英信	客員准教授	sumioka ■ atr.jp
先端コミュニケーション論	山田　玲子	客員教授	yamada ■ atr.jp

教員アドレスについては、■を@に置き換えてご利用ください。